

サステナビリティ報告に関する 第三者保証のご紹介

～ ESG評価を向上させるために～

一般社団法人 非財務情報保証協会

第三者保証が必要な理由・背景

1 ESG投資の拡大により、報告の信頼性が重要に

- 企業のESG（環境・社会・ガバナンス）情報に着目したESG投資が急拡大している。
- ESG投資では、企業の持続可能性と将来のリスク・機会・財務影響を評価するため、企業が行うサステナビリティ報告の信頼性が重視され、信頼性を担保するために独立した第三者による保証の取得が重要になってきている。

2 ESG調査で高評価を得るために、第三者保証が必要不可欠

- ESG投資で投資先として選ばれるためには、ESG調査で高評価を得ることが必要。
- CDP 質問書, FTSE ESG レーティングス, MSCI ESG リサーチ, RobecoSAM 企業サステナビリティ評価といった ESG 投資先の選定に使用される投資家調査で高評価を得るためには、ESG 実績の第三者保証が必要不可欠となっている。

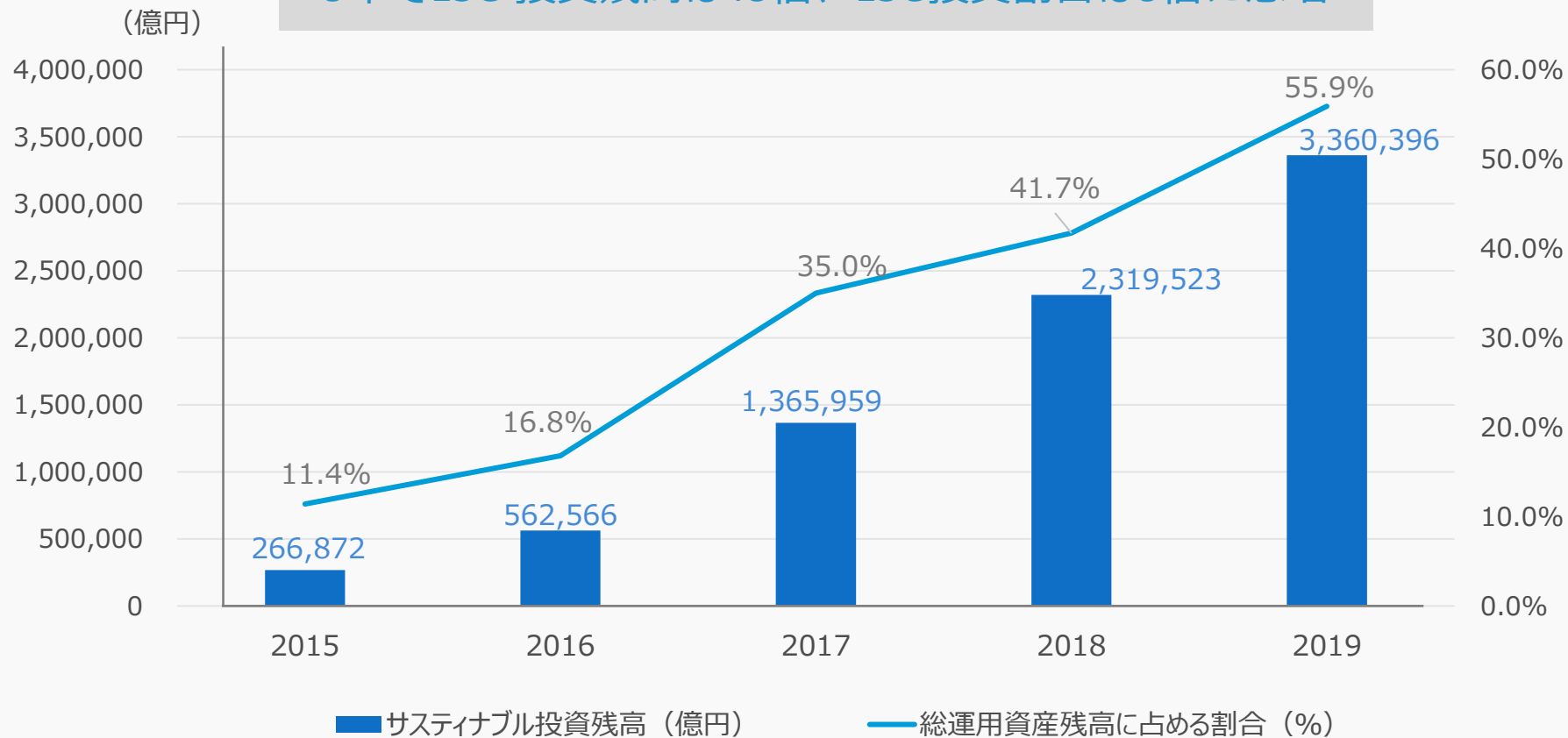
3 統合報告の増加と、ESG 情報開示の制度化の流れ

- 財務情報と非財務情報を統合して報告する統合報告の増加や ESG 情報開示の制度化の流れが、ESG 報告に対する第三者保証の必要性を高めている。

ESG 投資の現状

日本国内のサステナブル投資残高

5年でESG 投資残高は13倍、ESG投資割合は5倍に急増

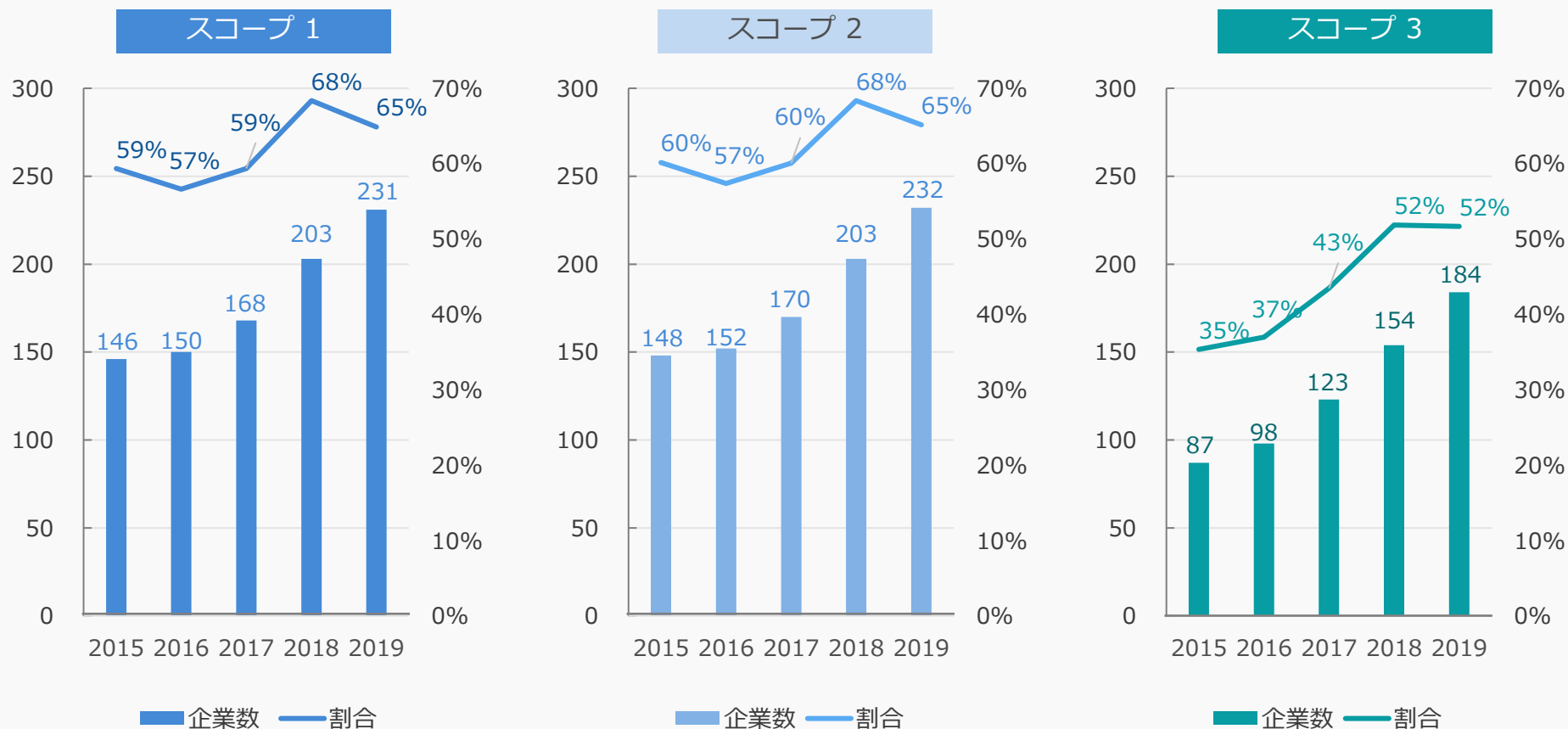


出典： NPO法人日本サステナブル投資フォーラム「日本サステナブル投資白書 2017」、「サステナブル投資残高アンケート 2019 調査結果」

第三者検証・保証の実施状況

ESG調査で高評価を獲得するには、第三者検証・保証が不可欠になっている

GHG排出量実績に対する第三者検証・保証を実施している企業数と割合



出典：CDP 気候変動レポート 2015～2019

「第三者保証」の課題

高額な保証費用

第三者保証する指標の数により異なるが、一般的に約300～1000万円（平均500万円程度）の高額な費用がかかる。

時間と労力がかかる

第三者保証対応のために、多くの時間と労力がかかる。

本質的なCSR活動を圧迫

保証費用が高額なため、限られたCSR予算を本質的な活動に充てられない。

保証機関の人員不足と品質のばらつき

- 需要急増による保証機関の人員不足
- 保証手続きが属人的で品質のばらつきが多い。

AIやITを活用した高品質で低価格な
第三者保証サービスで解決

- 高品質・低価格のサービス提供により、より多くの日本企業が第三者保証を取得でき、企業の取り組みが投資家等から正当に評価されます。
- 保証費用を抑えることにより、より本質的なCSR活動に限られた予算を配分できます。

当協会の「第三者保証」の概要

保証項目	<ul style="list-style-type: none">環境関連実績値（エネルギー使用量、GHG排出量、GHG削減貢献量、廃棄物発生量、大気汚染物質排出量、VOC排出量、水使用量、排水量、化学物質排出移動量など）社会関連実績値（従業員・役員男女比率、有給取得率、産休・育休・介護休暇取得率、障害者雇用率、離職率、教育・研修時間、労働災害件数・度数率など）
保証基準	ISAE3000、ISAE3410、AA1000AS
保証レベル	限定的保証（ISAE3000、ISAE3410）、中位保証（AA1000AS）
ESG質問書・調査への利用	CDP 投資家質問書、RobecoSAM 企業サステナビリティ評価（DJSI）、FTSE ESG レーティングス、MSCI ESGリサーチなどへの利用が可能。
保証費用	50万円～300万円程度 （業態、業種、事業所数、売上規模、保証対象指標に基づき決定）
保証報告書発行までの期間	2か月程度 ※ 保証対象のすべてのデータを受領後、データ確認と修正確認に1か月程度、報告書の原稿確認と修正確認に2週間程度かかります。

当協会の「第三者保証」の流れ

	保証対象指標の決定	保証業務計画の策定	保証手続き	開示原稿の確認 品質チェック	保証報告書の発行
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 保証取得目的のヒアリング ▶ 保証対象範囲、保証対象項目の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ データ収集プロセス、体制の確認 ▶ データ集計/算定基準の確認 ▶ 保証対象指標の重要性の決定 ▶ 保証計画の策定 ▶ スケジュール作成 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 本社、事業所往査 ▶ データ収集体制の確認 ▶ 計算方法の確認 ▶ 集計結果の確認 ▶ 集計結果の比較分析 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ESG報告（サステナビリティ報告書やウェブサイト）の原稿を確認 ▶ 品質管理担当者による保証業務の品質チェック ▶ 保証手続き審査会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 第三者保証報告書の発行 ▶ 次年度に向けた改善提案
必要な資料	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 過年度のESG報告（サステナビリティ報告書やウェブサイト） ▶ 当年度のESG情報開示の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 事業概要、事業所概要 ▶ データ収集プロセス・体制に関する説明資料 ▶ データ集計/算定基準 ▶ 報告書・ウェブサイト公表のスケジュール 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 開示指標の集計結果 ▶ 算定基準の除外事項 ▶ 前年度実績からの変動理由と根拠資料 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ サステナビリティ報告書やウェブサイトの原稿やテストサイト情報（保証対象指標の実績値、グラフ、表、算定方法など） 	

サステナビリティ報告書が掲載された
保証報告書が掲載された
ウェブサイトの公表

当協会の「第三者保証」の特長

一般的な第三者検証・保証の課題

- 根拠資料のデータを目視でチェックするために作業効率が悪く、保証手続きの期間が長くなる。
- データをチェックする基準が明確でないことが多く、保証担当者の勘と経験に保証品質は左右される。

当協会の第三者保証の特長

AI・IT技術を活用したシステムチックな保証

- 非効率さを改善するため、AIを活用した自動チェック機能を国内で初めて導入
- 保証業務のスピードや正確性の向上し、高品質・低価格・短納期を実現。

- 第三者保証に対する需要の高まりにより、第三者保証機関の人材が不足。
- ESG分野未経験者や関連業務経験が浅い若手担当者が第三者保証を実施するケースが多い。

ESG分野の豊富な経験と高い専門性

ESG分野で10年以上の実務経験がある高度な専門知識を持つスペシャリスト、または、会計監査経験が豊富でESG分野にも精通したプロフェッショナルが第三者保証を担当。

- 煩雑な社内手続きと関連書類の作成および非効率な業務運用により、多くの時間と労力が必要。
- 契約手続きや保証報告書発行までに長い時間と調整が必要となる。

最短期間での保証報告書発行

- 会計監査の最新の動向を踏まえ、保証手続きのシステム化と効率化を徹底。
- お客様に余計な労力を使わせることなく、最短期間（1～2か月程度）で保証報告書を発行。

お問合せ

一般社団法人 非財務情報保証協会

第三者保証担当

info@hosyo.org

WEB : <https://hosyo.org>